(株) ジェイテクトエレクトロニクス KOY_CSIO_JA_27 4/2024

KOSTAC/DL シリーズ CCM SIO ドライバ

1	システム構成	3
2	接続機器の選択	9
3	通信設定例	10
4	設定項目	61
5	結線図	66
6	使用可能デバイス	93
7	デバイスコードとアドレスコード	
8	エラーメッセージ	

はじめに

本書は表示器と接続機器を接続する方法について説明します。本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

(株) ジェイテクトエレクトロニクス製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
		G-01DM 上の CN1	RS422/485 (4 線式)	設定例 2 (12 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
KOSTAC SG		G-01DM 上の CN2	RS232C	設定例 1 (10 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
KOSIAC SU	50-0	CPU 上の汎用通	RS232C	設定例 3 (14 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
		信ポート ^{*1}	RS422/485 (4 線式)	設定例 4 (16 ページ)	結線図 3 (76 ページ)
	SU-5	IL01DM	RS232C	設定例 5 (18 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
	50-5	0-01Divi	RS422/485 (4 線式)	設定例 6 (20 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
			RS232C	設定例 5 (18 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
	SU-5E SU-6 SU-6B SU-6B-C	U-01DM	RS422/485 (4 線式)	設定例 6 (20 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 7 (22 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
KOSTAC SU			RS422/485 (4 線式)	設定例 8 (24 ページ)	結線図 3 (76 ページ)
	SU-5M SU-5M-C	U-01DM	RS232C	設定例 5 (18 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 6 (20 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 1	RS232C	設定例 9 (26 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 10 (28 ページ)	結線図 3 (76 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 11 (30 ページ)	結線図 4 (81 ページ)
			RS232C	設定例 5 (18 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
	AC SU SU-6M SU-6M-C	0-01DW	RS422/485 (4 線式)	設定例 6 (20 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
KOSTAC SU		CPU 上の汎用通 信ポート 1	RS232C	設定例 9 (26 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 10 (28 ページ)	結線図 3 (76 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 11 (30 ページ)	結線図 4 (81 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
KOSTAC SZ	SZ-4	CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 12 (32 ページ)	結線図 4 (81 ページ)
VOSTAC DZ2	PZ3-16ND1-16TD1	CPU 上の汎用通	RS232C	設定例 23 (53 ページ)	結線図 6 (85 ページ)
KOSTACT <i>ES</i>	PZ3M	信ポート2	RS422/485 (4 線式)	設定例 24 (55 ページ)	結線図 7 (87 ページ)
KOSTAC SR	SR-21 SR-22	E-02DM-R1	RS422/485 (4 線式)	設定例 13 (34 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
	D2-240	CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 14 (36 ページ)	結線図 4 (81 ページ)
DI 205	D2-250-1	CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 14 (36 ページ)	結線図 6 (85 ページ)
DL-203	D2 260	CPU 上の汎用通	RS232C	設定例 14 (36 ページ)	結線図 6 (85 ページ)
	D2-200	信ポート2	RS422/485 (4 線式)	設定例 15 (38 ページ)	結線図 7 (87 ページ)
	D4-430	D4-DCM	RS232C	設定例 16 (40 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 17 (42 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
	D4-440	D4-DCM	RS232C	設定例 16 (40 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 17 (42 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
DL-405		CPU 上の汎用通 信ポート	RS232C	設定例 18 (44 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 19 (46 ページ)	結線図 3 (76 ページ)
	D4-454*2	CPU 上の汎用通 信ポート 1	RS232C	設定例 25 (57 ページ)	結線図 1 (66 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 26 (59 ページ)	結線図 3 (76 ページ)
		CPU 上の汎用通 信ポート 2	RS232C	設定例 25 (57 ページ)	結線図 8 (92 ページ)
DL-305	D3-330	D3-DCM	RS422/485 (4 線式)	設定例 20 (48 ページ)	結線図 2 (68 ページ)
DirectLogic 05	D0-05AA D0-05AD D0-05AR D0-05DA	CPU 上の通信 ポート 1	RS232C	設定例 22 (52 ページ)	結線図 5 (83 ページ)
Directogie 05	D0-05DD D0-05DD-D D0-05DR D0-05DR-D	CPU 上の通信 ポート 2	RS232C	設定例 21 (50 ページ)	結線図 5 (83 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
DirectLogic 06	D0-06DD1 D0-06DD1-D D0-06DD2 D0-06DD2-D D0-06DR D0-06DR-D D0-06DA D0-06AR D0-06AR	CPU 上の通信 ポート 1	RS232C	設定例 22 (52 ページ)	結線図 5 (83 ページ)

*1 通信中はプログラマ通信ポートから命令語プログラマをはずしてください。

*2 ファームウェア Ver. 8.05 以降が必要です。(米国 ADC 社製の場合は、Ver. 1.03 以降)

MEMO ・ 表示器のロジック機能実行時間が長いと、接続機器との通信でエラーが発生する場合があります。ロジック機能実行時間が 700ms 以下になるように設定してください。

■ 接続構成

1:1 接続



■ IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。 詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

\$. II 7 [°]	使用可能ポート			
297-X	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)	
PS-2000B	COM1 ^{*1} 、COM2、 COM3 ^{*1} 、COM4	-	-	
PS-3450A、PS-3451A、 PS3000-BA、PS3001-BD	COM1、COM2 ^{*1*2}	COM2 ^{*1*2}	COM2 ^{*1*2}	
PS-3650A(T41 機種)、 PS-3651A(T41 機種)	COM1 ^{*1}	-	-	
PS-3650A(T42 機種)、 PS-3651A(T42 機種)	COM1 ^{*1*2} 、COM2	COM1 ^{*1*2}	COM1 ^{*1*2}	
PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A	COM1 ^{*1} 、COM2 ^{*1} 、 COM3 ^{*2} 、COM4	COM3 ^{*2}	COM3 ^{*2}	
PS-3711A	COM1 ^{*1} 、COM2 ^{*2}	COM2 ^{*2}	COM2 ^{*2}	
PS4000 ^{*3}	COM1、COM2	-	-	
PL3000	COM1 ^{*1*2} , COM2 ^{*1} , COM3, COM4	COM1*1*2	COM1*1*2	
PE-4000B Atom N270	COM1, COM2	-	-	
PE-4000B Atom N2600	COM1, COM2	COM3 ^{*4} 、COM4 ^{*4} 、 COM5 ^{*4} 、COM6 ^{*4}	COM3 ^{*4} 、COM4 ^{*4} 、 COM5 ^{*4} 、COM6 ^{*4}	
PS5000 (スリムパネルタ イプ Core i3 モデル) ^{*5 *6}	COM1、COM2 ^{*4}	COM2 ^{*4}	COM2 ^{*4}	
PS5000(スリムパネルタ イプ Atom モデル) ^{*5 *6}	COM1、COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}	
PS5000(耐環境パネルタ イプ) ^{*8}	COM1	-	-	
PS5000 (モジュラータイ プ PFXPU/PFXPP) ^{*5 *6} PS5000 (モジュラータイ プ PFXPL2B5-6)	COM1 ^{*7}	COM1 ^{*7}	COM1 ^{*7}	
PS5000(モジュラータイ プ PFXPL2B1-4)	COM1、COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}	COM2 ^{*7}	
PS6000(アドバンスド ボックス) PS6000(スタンダード ボックス)	000(アドバンスド ックス) 000(スタンダード ックス)		*10	
PS6000(ベーシックボッ クス)	66000 (ベーシックボッ COM1*9 ス)		COM1 ^{*9}	

*1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

*2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

- *3 拡張スロットに搭載した COM ポートと接続機器を通信させる場合、通信方式は RS-232C のみ サポートします。ただし、COM ポートの仕様上、ER(DTR/CTS) 制御はできません。 接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、ピン番号 1、4、6、9 には何も接続しないでくだ さい。ピン配列は IPC のマニュアルを参照してください。
- *4 通信方式を BIOS で設定する必要があります。BIOS の詳細は IPC のマニュアルを参照してくだ さい。
- *5 RS-232C/422/485 インターフェイスモジュールと接続機器を通信させる場合、IPC(RS-232C) または PS5000(RS-422/485)の結線図を使用してください。ただし PFXZPBMPR42P2 をフロー制御なしの RS-422/485(4 線式)として使用する場合は 7.RTS+ と 8.CTS+、6.RTS- と 9.CTS- を接続してください。 接続機器との接続で RS-422/485 通信を使用するときには通信速度を落として送信ウェイトを増やすことが必要な場合があります。
- *6 RS-232C/422/485 インターフェイスモジュールで RS-422/485 通信を使用するにはディップス イッチの設定が必要です。サポート専用サイトの「よくある質問」(FAQ)を参照してください。 (http://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1001.html)

項目	FAQ ID
PFXZPBMPR42P2のRS422/485切り替え方法	FA263858
PFXZPBMPR42P2の終端抵抗設定	FA263974
PFXZPBMPR44P2のRS422/485切り替え方法	FA264087
PFXZPBMPR44P2の終端抵抗設定	FA264088

- *7 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。ディップスイッチの詳細は IPC のマ ニュアルを参照してください。 ボックス Atom には RS-232C、RS-422/485 モードを設定するスイッチがありません。通信方式 は BIOS で設定してください。
- *8 接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、表示器側のコネクタを M12 A コード8 ピン(ソ ケット)に読み替えてください。ピン配列は結線図に記載している内容と同じです。M12 A コー ドのコネクタには PFXZPSCNM122 を使用してください。
- *9 本体上の COM1 以外に、オプションインターフェイス上の COM ポートを使用することもできます。
- *10 拡張スロットにオプションインターフェイスを取り付ける必要があります。

ディップスイッチの設定 (PL3000/PS3000 シリーズ)

RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容	
1	OFF ^{*1}	予約 (常時 OFF)	
2	OFF	通信方式:RS-232C	
3	OFF		
4	OFF	SD(TXD) の出力モード:常に出力	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
7	OFF	SDA(TXA)と RDA(RXA)の短絡:しない	
8	OFF	SDB(TXB)と RDB(RXB)の短絡:しない	

ディップスイッチ	設定値	設定内容
9	OFF	DC(DTC) 白動判御エード, 無効
10	OFF	RS(RTS) 目動制御モード: 無効

*1 PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする 必要があります。

RS-422/485(4 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容	
1	OFF	予約(常時 OFF)	
2	ON	· 法告土 - D.G. 422/405	
3	ON	地向万式、KS-422/405	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
7	OFF	SDA(TXA)と RDA(RXA)の短絡:しない	
8	OFF	SDB(TXB)と RDB(RXB)の短絡:しない	
9	OFF	DC(DTC) 白動判御エード, 毎	
10	OFF	К5(К15) 日勤前仰て一下 . 無効	

RS-422/485(2 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容	
1	OFF	予約(常時 OFF)	
2	ON	· 通信卡式 · BS /22//85	
3	ON	通信万式, KS-422/485	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力	
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω):なし	
7	ON	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡:する	
8	ON	SDB(TXB)と RDB(RXB)の短絡:する	
9	ON	DC(DTC) 白動判御エード・方効	
10	ON	へろ(へいろ) 日 動向1仰で「下、 日 刈	

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。

🍜 ようこそ GP-Pro EX ヘ			×
	接続機器設定	Ē	
GP-Pro	接続機器数	1	
		接続機器1	
	メーカー	(株)ジェイテクトエレクトロニクス	~
	シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO	~
	ポート	COM1	~
		この接続機器のマニュアルを見る	
Constant Constant Constant		最近使った接続機器	
	<		>
	□ システムエ!	リアを使用する	機器接続マニュアルへ
221			
	Į	戻る(B) 週信設定 ロシック画面作成	ベース画面作成 ギャンセル

設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1~4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「(株) ジェイテクトエレクトロニクス」 を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種(シリーズ)と接続方法を選択します。「KOSTAC/DLシ リーズ CCM SIO」を選択します。 「KOSTAC/DL シリーズ CCM SIO」で接続できる接続機器はシステム構成で確認して ください。 デシステム構成(3ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス(メモリ)を同期させる場合に チェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切 り替えたりウィンドウを表示させることができます。
システムエリアを	参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専 用エリア)」
使用する	この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。
	参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「システム設定 [本体設定] - [システムエ リア設定] の設定ガイド」
	参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	、 シリーズ KC	STAC/DLシリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	: 1 変更			
通信設定				
通信方式	RS232C	〇 RS422/485(2絹	泉式) ○ RS422/485(4線式)	ļ.
通信速度	19200	~		
データ長	07	8		
パリティ	○ なし	○ 偶数	 奇数 	
ストップビット	1	○ 2		
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CTS)	○ XON/XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)		
リトライ	2			
送信ウェイト	0 🜲	(ms)		
BL/ VCC	BI			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	(こするか_VCC(5V電源:	供給)	
にするかを選択で トを使用する場合	きます。デジタル製 計は、VCCを選択し	RS2320アイソレーション てください。	/ユニッ 和期時空気	
機器別設定			1070 BXXE	
接続可能台数	16台 機器	<u> 暑を追加</u>		
				間接機器
No 機器名	設定	" KOOTIO OO (T.). (追加
I PLC1	<u> </u> りりー	Z=KUSTAC SG/SU/S	529リーズ,局番号=1	1

◆ 機器設定

靜 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ シリーズを変更した場合 認してください。	KOSTAC SG/SU/SZシリー とは、すでに使用されているフ	-ズ 〜
局番号	1	初期設定
	OK(0)	キャンセル

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチおよびショートプラグで行ないます。設定を 行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを 参照してください。

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	子局番号:1
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	Peer to Peer 設定:1対nモード
9	OFF	マスタ/スレーブ設定:スレーブ

◆ 設定用ディップスイッチ SW1

◆ 設定用ディップスイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	ON	ボーレート伝送速度:19,200 bps
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無 : 有(奇数)
5	OFF	自己診断モード:OFF
6	OFF	ターンアラウンドディレー:なし
7	OFF	亡 然 渥延時間,0 mg
8	OFF	心合理处时间:0 IIIS
9	OFF	伝送モード : HEX モード

◆ ショートプラグ②

ショートプラグ	設定内容
232C ENABLE	通信方式:RS232C

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	マージリーズ [KOSTAC/DLシリー	ズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	: 1 変更				
通信設定					
通信方式	O RS232C	O RS422/485(2線式) () RS	422/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	8			
パリティ	○なし	○ 偶数	◉ 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	ER(DTR/CT)	2) 🔿 XON/XO	DFF	
タイムアウト	3	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0 🌲	(ms)			
RL/ VCC	I RI	0.1/00			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	しょうつい にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択で トを使用する場合	きます。デジタル製 は、VCCを選択し	RS2320アイソレージ てください。	ョンユニッ	初期時少宁	
柳碧史順改士				TARABAL	
1版667/1827E 接続可能台数	16台 機	器を追加			
					間接機器
No 機器名	設定				追加
J PLC1	上上 シリー	ズ=KOSTAC SG/SI	J/SZシリーズ,局番:	号=1	- 6

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチおよびショートプラグで行ないます。設定を 行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを 参照してください。

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	子局番号:1
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	Peer to Peer 設定:1対nモード
9	OFF	マスタ/スレーブ設定:スレーブ

◆ 設定用ディップスイッチ SW1

◆ 設定用ディップスイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	ON	ボーレート伝送速度:19,200 bps
3	ON	
4	ON	パリティの有/無:有(奇数)
5	OFF	自己診断モード:OFF
6	OFF	ターンアラウンドディレー:なし
7	OFF	亡
8	OFF	心合理是时间,U IIIS
9	OFF	伝送モード : HEX モード

◆ ショートプラグ②

ショートプラグ	設定内容
232C DISABLE	通信方式:RS422

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器落
**~~ メーカー (株)*フェイ	(テカトエレカトロニカ)	シリーズ	KOSTAC/DI	⊴u – z" com sto	ポート COM1
大字列手、灯、					
文子がす つんてつ					
通信設定					
通信方式	RS232C	O RS422/4850	2線式) ()RS422/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	◯ 偶数	() 奇	銰	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CT)	rs) 🔿 xo	N/XOFF	
タイムアウト	3	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0 🖨	(ms)			
RI / VCC	(● KI 0+#+u^:,±DV 3.±5) VCC	(百/# 64)		
にするかを選択で	「きます。デジタル製	RS232Cアイソレーシ	いほう共行して (ヨンユニッ		
トを1史用 9 の 场1	5は、VUUを選択し	11/2000		初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	器を追加			
No 機器名	設定				間接機器
I PIG1	8XAE	Z=KOSTAC SG/S	11/S7シリーブ	局番号=1	
	111 J J	,,			F (1)

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	含は、すでに使用されているアドレスを再研	崔
局番号	1 ≑	
	补刀其用 冒受定	2
	OK(0) キャンセル	

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ(S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	ON	通信方式:RS232C
SW2	OFF	CCM 局番設定:有効
SW3	ON	ボーレート / F 送速度 · 10 200 hpg
SW4	ON	ハ レ 下国达述及 19,200 ops

 MEMO

 SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となり ます。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

◆ CCM 局番設定

- 1 メニュー 56を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO	 表示器で設定した局番に合わせてください。 	
------	------------------------------------------	--

3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変動
メーカー (株)ジェイ	イテクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ CCI	M SIO ポート COM1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>			
通信方式	○ BS232C	○ BS422/485/	つ線また) ● RS400/48	25(14年代)
通信加速	10200	0104220400	200722)40	0(40kF4)
「一」」本度	7			
パリティ	⊖ : ⊖ なし	〇偶数	● 奇数	
ストップビット	1	O 2		
フロー制御	○なし	ER(DTR/C)	rs) 🔿 Xon/Xoff	
タイムアウト	3 🌲	(sec)		
リトライ	2 🖨			
送信ウェイト	0 🌲	(ms)		
RI / VCC	() RI			
RS232Cの場合	9番ピンをRI(入力))にするか VCC(5V電	源供給)	
にするかを選択 トを使用する場	Ciきます。 テジタル製 合は、 VCCを選択し	!RS2320アイソレーシ ってください。	יבבעבי	初期設定
機器別語定				
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>		
	=n			間接機器
No 機器名	設定			追加
M PLOT	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	Z=KUSTAC SG/S	0/52ンリース,向番号=1	2 4

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ
シリーズを変更した場 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ(S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	OFF	通信方式:RS422
SW2	OFF	CCM 局番設定:有効
SW3	ON	ボーレート / F 送速度 · 10 200 hpg
SW4	ON	ハ レ 下国达述及 19,200 ops

 MEMO

 SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となり ます。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

◆ CCM 局番設定

- 1 メニュー 56を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、エンタキーを押します。
- **2** CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO ・表示器で設定	した局番に合わせてください。
--------------	----------------

3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/DL	シリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	1 変更				
通信設定	~	- ·			
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 〇)RS422/485(4線式)
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	○ 偶数	● 奇势	紋	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	ER(DTR/C)	rs) 🔿 xo	N/XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2	1			
送信ウェイト	0 🜲	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力))にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択で トを使用する場合	きます。 テシタル製 :は、 VCCを選択し	RS232Cアイソレージ てください。	/ヨンユニッ	シロ甘用三小二	2
				作力共和国风风	-
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	>	<
PLC1		
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜]
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再確	
局番号	1	
	初期設定	
	OK(O) キャンセル	

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。 設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュ アルを参照してください。

◆ 局番設定用ロータリスイッチ

ローダリスイッチ	設定	設定内容
×10	0	接続機器の局番(十の位)
×1	1	接続機器の局番(一の位)

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

◆ 設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容		
1	ON			
2	ON	ボーレート伝送速度: 19,200 bps		
3	ON			
4	ON	パリティの有 / 無 : 有(奇数)		
5	OFF	自己診断モード:OFF		
6	OFF			
7	OFF	応答遅延時間:0ms		
8	OFF			

◆ 設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定:1対nモード
2	OFF	マスタ/スレーブ設定:スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定:通常動作モード
4	OFF	伝送モード:HEX モード

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接硫機器1				
概要				接続機器変更
メーカー (株)ジェイ:	テクトエレクトロニクス	、 シリーズ Ki	DSTAC/DLシリーズ COM S	SIO ポート COM1
文字列データモード	1 <u>変更</u>			
通信設定				
通信方式	O RS232C	O RS422/485(2#	泉式) () RS422/485(/	4線式)
通信速度	19200	~		
データ長	07	. 8		
パリティ	○なし	○ 偶数	 奇数 	
ストップビット	1	O 2		
フロー制御	○なし	ER(DTR/CTS)) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト	3 🚖	(sec)		
リトライ	2			
送信ウェイト	0	(ms)		
PL (1)(CC				
RS232G加場合	 9番ピ\/をRI(入力)	し 1000 にするかいCC(5い電源	(供給)	
にするかを選択で	きます。デジタル製	RS232Cアイソレーショ	2222	
1.6171113.0-201	(a. 1002)21/0	01/20010	初期	期設定
機器別設定				
接続可能台数	16台 機器	<u>器を追加</u>		
No 機器名	設定			間接機器 追加
👗 1 PLC1	下 シリー	ズ=KOSTAC SG/SU/	SZシリーズ,局番号=1	

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ
シリーズを変更しま 認してください。	と場合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。 設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュ アルを参照してください。

◆ 局番設定用ロータリスイッチ

ローダリスイッチ	設定	設定内容
×10	0	接続機器の局番(十の位)
×1	1	接続機器の局番(一の位)

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

◆ 設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	ON	ボーレート伝送速度: 19,200 bps
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無 : 有(奇数)
5	OFF	自己診断モード:OFF
6	OFF	
7	OFF	応答遅延時間:0ms
8	OFF	

◆ 設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定:1対nモード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定:スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定:通常動作モード
4	OFF	伝送モード : HEX モード

3.7 設定例 7

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器落
**~~ メーカー (株)*フェイ	(テカトエレカトロニカ)	シリーズ	KOSTAC/DI	⊴u – z" com sto	ポート COM1
大字列手、灯、					
文子がす つんてつ					
通信設定					
通信方式	RS232C	O RS422/4850	2線式) ()RS422/485(4線式)	
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	◯ 偶数	() 奇	銰	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CT)	rs) 🔿 xo	N/XOFF	
タイムアウト	3	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0 🖨	(ms)			
RI / VCC	(● KI 0+#+u^:,±DV 3.±5) VCC	(百/# 64)		
にするかを選択で	「きます。デジタル製	RS232Cアイソレーシ	いほう共行して (ヨンユニッ		
トを1史用 9 の 场1	5は、VUUを選択し	11/2000		初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	器を追加			
No 機器名	設定				間接機器
I PIG1	axae III Sull-	Z=KOSTAC SG/S	11/S7シリーブ	局番号=1	
	111 J J	,,			F (1)

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ(S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード:システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定:有効
SW3	ON	ボーレート 左送連座 · 10 200 hmg
SW4	ON	4 ビ FIA L M K 2 . 13,200 Ups

 MEMO

 SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となり ます。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

◆ CCM 局番設定

- 1 メニュー 56を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、エンタキーを押します。
- **2** CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

МЕМО	• 表示器で設定した局番に合わせてください。
------	------------------------

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- **4** パリティを奇数 (ODD) に設定し、エンタキーを押します。

3.8 設定例 8

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェイ:	テクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/	DLシリーズ CCM SIO	ж−⊦сом1
文字列データモード	1 変更				
通信設定	~	- ·			
通信方式	O RS232C	O RS422/4850	2線式)	● RS422/485(4線式)	1
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	○ 偶数	•	奇数	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/C)	rs) 🔿 :	KON/XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0 🜲	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力))にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択で トを使用する場合	さます。テンタル裂 は、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	(ヨンユニツ	約期間	2
				1	
接続可能台数	16台 機構	器を追加			
18976 1 HE LE 84		<u>en (1997)</u>			問接機器
No 機器名	設定				追加
👗 1 PLC1	計 シリー	ズ=KOSTAC SG/S	U/SZシリー	ズ,局番号=1	F

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ ~
シリースを変更した場合 認してください。	合は、すぐに使用されているアドレスを再確
局番号	1 🚔
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ(S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード:システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定:有効
SW3	ON	ボーレート / F 送速度 · 10 200 hpg
SW4	ON	イ レ FAAAkk · 19,200 ups

 MEMO
 ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となり ます。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

◆ CCM 局番設定

- 1 メニュー 56を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、エンタキーを押します。
- **2** CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- **4** パリティを奇数 (ODD) に設定し、エンタキーを押します。

3.9 設定例 9

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					
メーカー (株)ジェ	イテクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/DLシ!	リーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>				
通信設定					
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 🔿 F	RS422/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	◯ 偶数	◉ 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	● ER(DTR/C	rs) 🔿 XON/	'XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合 にするかを選択	、9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電 RS2320アイソルード	源供給)		
トを使用する場	合は、VCCを選択し	てください。	3/1_/	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加
👗 1 PLC1	FF シリー	ズ=KOSTAC SG/S	U/SZシリーズ,局待	番号=1	

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定はプログラマブルコントローラを使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源 を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

特殊レジスタ	設定項目	設定値	入力値	
	応答遅延時間	0 ms		
R772	通信タイムアウト時間	0 ms	CCM: 0040 自動判別 : 00E0	
	通信プロトコル設定	CCM または自動判別		
	パリティ	奇数		
P773	ストップビット	1	8601	
R(7)5	通信速度	19,200 bps		
	通信局番	1		

汎用通信ポート1の設定は以下の特殊レジスタで設定します。

- 1 接続機器のモードスイッチを「TERM」に設定し、プログラマブルコントローラをプログラマポート に接続した状態で接続機器の電源を入れます。
- 2 クリアキーを押し、メッセージ表示部に何も表示されていない状態にします。
- 3 REG キーを押し、「772」と入力します。メッセージ表示部に「R772」と表示されます。
- 4 Rモニタキーを押します。メッセージ表示部に特殊レジスタ R772 の現在値が表示されます。
- 5 K(CON) キーを押した後に「0040」(CCM プロトコル)または「00E0」(自動判別)と入力し、 ↓ キーを押します。
- 6 同様の操作で特殊レジスタ R773の現在値を表示します。
- 7 K(CON) キーを押した後に「8601」と入力し、↓キーを押します。
- 8 同様の操作で通信パラメータ設定選択 R767 の現在値を表示します。
- 9 K(CON) キーを押した後に「AA5A」を入力し、→キーを押します。正常に設定が完了すると値が「AAAA」に変化します。

3.10 設定例 10

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	シリーズ	KOSTAC/DLシリー	-ズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモー	× 1 <u>変更</u>				
通信設定					
通信方式	O RS232C	O RS422/4850	2線式) 💿 RS	422/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	● 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	ER(DTR/CT)	rs) 🕜 XON/XO	OFF	
タイムアウト	3 🜲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	I RI				
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択し	"さます。 テンタル裂合は、 VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	リコンユニツ	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機器	<u>器を追加</u>			
M. 指理力	≣∿				間接機器
	設定				追加
			いっこうり へい可量		= 0

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定はプログラマブルコントローラを使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源 を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

特殊レジスタ	設定項目	設定値	入力値	
	応答遅延時間	0 ms		
R772	通信タイムアウト時間	0 ms	CCM: 0040 自動判別 : 00E0	
	通信プロトコル設定	CCM または自動判別		
	パリティ	奇数		
P773	ストップビット	1	8601	
R(7)5	通信速度	19,200 bps		
	通信局番	1		

汎用通信ポート1の設定は以下の特殊レジスタで設定します。

- 1 接続機器のモードスイッチを「TERM」に設定し、プログラマブルコントローラをプログラマポート に接続した状態で接続機器の電源を入れます。
- 2 クリアキーを押し、メッセージ表示部に何も表示されていない状態にします。
- 3 REG キーを押し、「772」と入力します。メッセージ表示部に「R772」と表示されます。
- 4 Rモニタキーを押します。メッセージ表示部に特殊レジスタ R772 の現在値が表示されます。
- 5 K(CON) キーを押した後に「0040」(CCM プロトコル)または「00E0」(自動判別)と入力し、 ↓ キーを押します。
- 6 同様の操作で特殊レジスタ R773の現在値を表示します。
- 7 K(CON) キーを押した後に「8601」と入力し、↓キーを押します。
- 8 同様の操作で通信パラメータ設定選択 R767 の現在値を表示します。
- 9 K(CON) キーを押した後に「AA5A」を入力し、→キーを押します。正常に設定が完了すると値が「AAAA」に変化します。

3.11 設定例 11

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器到
メーカー (株)ジェ	イテクトエレクトロニク	えー シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモー	ド 1 変重			
×1707 XC				
通信設定				
通信方式	RS232C	O RS422/485	2線式) 🔘 RS422/485(4線5	()
通信速度	19200	~		
データ長	07	. 8		
パリティ	○ なし	◯ 偶数	● 奇数	
ストップビット	1	O 2		
フロー制御	○ なし	ER(DTR/C [*])	IS) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト	3 🖨	(sec)		
リトライ	2			
送信ウェイト	0	(ms)		
	● RI		· F /# 44)	
RS232000場合 (にするかを選択)	、9番ビンをRILヘノ」 できます。デジタル製	ルとするか VCO(5V電 RS232Cアイソレーシ	2月1日前) イョンユニッ	
トを使用する場	合は、VCCを選択し	てくだざい。	补刀其用 提供	定
機器別設定				
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>		
M. 撤票力	≣n.⇔			間接機器
	設定	-" KOSTAO SO (0		追加
M PLOT	推 [シリ ^ュ	-X=KUSTAC SG/S	0/32ンリース,同番方=1	F 4

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	含は、すでに使用されているアドレスを再研	崔
局番号	1 ≑	
	补刀其用 冒受定	2
	OK(0) キャンセル	

通信設定はプログラマブルコントローラを使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源 を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

特殊レジスタ	設定項目	設定値	入力値	
	応答遅延時間	0 ms		
R774	通信タイムアウト時間	0 ms	CCM: 0040 自動判別 : 00E0	
	通信プロトコル設定	CCM または自動判別		
	パリティ	奇数		
R775	ストップビット	1	8601	
K//S	通信速度	19,200 bps		
	通信局番	1		

汎用通信ポート2の設定は以下の特殊レジスタで設定します。

- 1 接続機器のモードスイッチを「TERM」に設定し、プログラマブルコントローラをプログラマポート に接続した状態で接続機器の電源を入れます。
- 2 クリアキーを押し、メッセージ表示部に何も表示されていない状態にします。
- 3 REG キーを押し、「774」と入力します。メッセージ表示部に「R774」と表示されます。
- 4 Rモニタキーを押します。メッセージ表示部に特殊レジスタ R774 の現在値が表示されます。
- 5 K(CON) キーを押した後に「0040」(CCM プロトコル)または「00E0」(自動判別)と入力し、 ↓ キーを押します。
- 6 同様の操作で特殊レジスタ R775 の現在値を表示します。
- 7 K(CON) キーを押した後に「8601」と入力し、↓キーを押します。
- 8 同様の操作で通信パラメータ設定選択 R767 の現在値を表示します。
- 9 K(CON) キーを押した後に「A5AA」を入力し、→キーを押します。正常に設定が完了すると値が「AAAA」に変化します。

3.12 設定例 12

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					
メーカー (株)ジェ	イテクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/DLシ!	リーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>				
通信設定					
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 🔿 F	RS422/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	◯ 偶数	◉ 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	● ER(DTR/C	rs) 🔿 XON/	'XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合 にするかを選択	、9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電 RS2320アイソルード	源供給)		
トを使用する場	合は、VCCを選択し	てください。	3/1_/	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加
👗 1 PLC1	FF シリー	ズ=KOSTAC SG/S	U/SZシリーズ,局待	番号=1	

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	含は、すでに使用されているアドレスを再研	崔
局番号	1 ≑	
	补刀其用 冒受定	2
	OK(0) キャンセル	

通信設定は命令語プログラマ(S-01P)を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源 を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO ・ 設定時はモード切替スイッチを TERM にしてください。

◆ CCM 局番設定

1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、ENT キーを押します。

2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

- **3** 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 4 パリティを奇数 (ODD) に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。

3.13 設定例 13

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変列
メーカー (株)ジェイ:	テクトエレクトロニクス	ス シリーズ [KOSTAC/DLシリーズ (CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	1 変更				
\=					
加吉設定		0 50 400 (405)	(1 -1)	(405(46 0 - b)	
通信方式	O RS232C	O RS422/485(2線式) (• RS422/	/485(4禄式)	
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	○ 偶数	● 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	ER(DTR/CT)	S) 🔿 XON/XOFF		
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2	-			
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	() RI	O VCC			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力))にするかVCC(5V電	原供給)		
にするかを選択(***) トを使用する場合	きます。テジタル製 は、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	ヨンユニッ	クロ甘用目の一二	
				TUMERAE	
機器別設定	101. 400				
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加
	In Sulls		" 티 므_ 1		

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	KOSTAC SRシリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再	確
局番号	1	
	*刀其月15分	定
	OK(0) キャンセノ	ŀ

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容	
1	ON	デートに 1 仁澤遠座 - 10 200 hrs	
2	ON	1 小一レート1ム広述後 · 19,200 ops	
3	OFF	パリティの有/無:無	
4	ON	自己診断モード:OFF	
5	OFF	ターンアラウンドディレー:なし	
6	OFF	電源投入時モード:システムに合わせてください。	
7	OFF	常時 OFF	
8	OFF	伝送モード : HEX モード	

◆ 設定用ディップスイッチ SW2

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	子局番号:1
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	常時 OFF

3.14 設定例 14

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器
メーカー (株)ジェ	イテクトエレクトロニク	えー シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ COM SIG	о
女字列データモー	ド 1			
27/11/20				
通信設定				
通信方式	RS232C	O RS422/485	2線式) 🔘 RS422/485(4線	(元氛
通信速度	19200	\sim		
データ長	07	۱ ا		
パリティ	○ なし	◯ 偶数	 奇数 	
ストップビット	1	O 2		
フロー制御	○なし	ER(DTR/C [*])	rs) 🔿 Xon/Xoff	
タイムアウト	3	(sec)		
リトライ	2			
送信ウェイト	0 🛊	(ms)		
RI / VCC	● RI			
RS232000場合 にするかを選択	、9番ビンをRILヘノ」 できます。デジタル製	ルとするか VCO(5V電 RS232Cアイソレーシ	(源1共宿) /ヨンユニッ	
トを使用する場	合は、VCCを選択し	ていたきい。	*刀其用:	設定
機器別設定				
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>		
No 機器交	静中			間接機器
	ERJE		Roule 7 日来 1	2570
M PLOT	11 29-	X-DL-200/DL-40	リンサニス/可量 5日1	20

♦ 機器設定

🎒 個別機器設定	×
PLG1	
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ ~
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル
通信設定は命令語プログラマ(S-01P)を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源 を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO ・ 設定時はモード切替スイッチを TERM にしてください。

◆ CCM 局番設定

1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、ENT キーを押します。

2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

- **3** 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 4 パリティを奇数 (ODD) に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。

3.15 設定例 15

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェ1	(テクトエレクトロニクス	シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ	CCM SIO	ポート СОМ1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>				
通信設定					
通信方式	O RS232C	O RS422/4850	2線式) 💿 RS422	2/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	• 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CT)	S) 🔿 XON/XOFF	-	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	() RI				
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択() トを使用する場合	ござます。テンタル裂 合は、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	ヨンユニツ	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機器	<u>器を追加</u>			
1. 书注中之	=				間接機器
	設定		요비는것 목표목 - 1		追加
1 PLOT		X-DL-200/DL-40;	シリニス/可量方=1		20

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定は命令語プログラマ(S-01P)を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源 を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO ・ 設定時はモード切替スイッチを TERM にしてください。

◆ CCM 局番設定

1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、ENT キーを押します。

2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。
- 4 パリティを奇数 (ODD) に設定し、ENT キーを押します。
- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。

3.16 設定例 16

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

亲続機器1					
概要					接続機器変
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	、 シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ	CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	1 変更				
通信設定	~				
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 〇 RS42	22/485(4線式)	
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/C)	rs) 🔿 Xon/Xof	F	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0 🜲	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択で トを使用する場合	ざます。テンタル裂 rは、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	יפעביש	オカ甘用言な一字	
				TUMBAL	
機器別設定	101. 100				
接続可能台致	16台 機	<u>話を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加
X 1 PLC1	画 シリー	ズ=DL-205/DL-40	5シリーズ,局番号=1		

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🜇 ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。 設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュ アルを参照してください。

◆ 局番設定用ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	設定内容
×10	0	接続機器の局番(十の位)
×1	1	接続機器の局番(一の位)

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

◆ 設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	ON	ボーレート伝送速度: 19,200 bps
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無 : 有(奇数)
5	OFF	自己診断モード:OFF
6	OFF	
7	OFF	応答遅延時間:0ms
8	OFF	

◆ 設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定:1対nモード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定:スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定:通常動作モード
4	OFF	伝送モード : HEX モード

3.17 設定例 17

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	マロシリーズ [KOSTAC/DLシリーズ CCI	M SIO ポート COM1
文字列データモート	* 1 変更			
通信設定				
通信方式	O RS232C	O RS422/485(2線式)	35(4線式)
通信速度	19200	~		
データ長	07	8		
パリティ	○なし	○ 偶数	● 奇数	
ストップビット	1	O 2		
フロー制御	○なし	ER(DTR/CT)	S) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト	3	(sec)		
リトライ	2			
送信ウェイト	0	(ms)		
RL / VCC	RI			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)	
にするかを選択で トを使用する場合	『きます。デジタル製 合は、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	3) 22 9	如期時空
継界印度会会				TOTAL XAL
·派·西加加家/E 接続可能台数	16台 機器	器を追加		
				間接機器
No 機器名	設定			追加
M PLC1	上 シリー	ス=DL-205/DL-405	シリース,局番号=1	F

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定はリンク I/F ユニット前面のロータリスイッチおよび背面のディップスイッチで行ないます。 設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュ アルを参照してください。

◆ 局番設定用ロータリスイッチ

ローダリスイッチ	設定	設定内容
×10	0	接続機器の局番(十の位)
×1	1	接続機器の局番(一の位)

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

◆ 設定用ディップスイッチ SW4

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	ON	ボーレート伝送速度:19,200 bps
3	ON	
4	ON	パリティの有 / 無 : 有(奇数)
5	OFF	自己診断モード:OFF
6	OFF	
7	OFF	応答遅延時間:0ms
8	OFF	

◆ 設定用ディップスイッチ SW5

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	OFF	Peer to Peer 設定:1対nモード
2	OFF	マスタ / スレーブ設定:スレーブ
3	OFF	タイムアウト有無設定:通常動作モード
4	OFF	伝送モード : HEX モード

3.18 設定例 18

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1			-	
概要				
メーカー (株)ジェ	(テクトエレクトロニク)	え シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ CCM SIG	
立字列データモー				
2790 90				
通信設定				
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 🔘 RS422/485(4約	(江泉
通信速度	19200	~		
データ長	07	. 8		
パリティ	○なし	◯ 偶数	 奇数 	
ストップビット	1	O 2		
フロー制御	○なし	ER(DTR/C [*])	IS) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト	3 🚖	(sec)		
リトライ	2 🜲	1		
送信ウェイト	0 🜲	(ms)		
	0.57	-		
RI/VCC	(● KL 0#+v\.≿Dĭ/l th	しいい (にオスわいつつに))団	◎ 百/ 世 <i>经</i> ~)	
にするかを選択	できます。デジタル製	RS232Cアイソレーシ	ルボ(共和) /ヨンユニッ	
トを1史用 9 つ 场	古は、VUUを選択し	11/2000	补刀其用	設定
機器別設定				
接続可能台数	16台 機	器を追加		
No 機器を	設定			間接機器
		7"-DI-205/DI-40	57川ーブ 局乗号-1	15/10
	29-	X-DE 2007 DE-40	シンテンパリ田 ケート	10

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🜇 ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再	確
局番号	1	
	补刀其用言 受:	定
	OK(O) キャンセル	

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ(S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード:システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定:有効
SW3	ON	ボーレート / F 送速度 · 10 200 hpg
SW4	ON	イ レ FAAAkk · 19,200 ups

 MEMO

 SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となり ます。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

◆ CCM 局番設定

- 1 メニュー 56を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- **4** パリティを奇数 (ODD) に設定し、エンタキーを押します。

3.19 設定例 19

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェ1	(テクトエレクトロニクス	シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ	CCM SIO	ポート СОМ1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>				
通信設定					
通信方式	O RS232C	O RS422/4850	2線式) 💿 RS422	2/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	• 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CT)	S) 🔿 XON/XOFF	-	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	() RI				
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択() トを使用する場合	ござます。テンタル裂 合は、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	ヨンユニツ	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機器	<u>器を追加</u>			
1. 书注中之	=				間接機器
	設定		않네는것 목표목 1		追加
1 PLOT		X-DL-200/DL-40;	シリニス/可量方=1		20

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定は CPU ユニットのディップスイッチで行ないます。局番設定は命令語プログラマ(S-01P) を使用して設定します。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	設定内容
SW1	任意	電池モード:システムに合わせてください。
SW2	OFF	CCM 局番設定:有効
SW3	ON	ボーレート / F 送速度 · 10 200 hpg
SW4	ON	イ レ FAAAkk · 19,200 ups

 MEMO
 ・ SW2 を ON にすると、伝送モードが ASCII モードとなるため、通信が不可能となり ます。必ず OFF にして CCM 局番と伝送モードを設定してください。

◆ CCM 局番設定

- 1 メニュー 56を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、エンタキーを押します。
- 2 CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、エンタキーを押します。

MEMO	• 表示器で設定した局番に合わせてください。	
------	------------------------	--

- 3 伝送モードを「HEX」に設定し、エンタキーを押します。
- 4 パリティを奇数 (ODD) に設定し、エンタキーを押します。

3.20 設定例 20

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	、 シリーズ [KOSTAC/	DLシリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	1 変更				
通信設定	0.050000	0 00 400 (405)	o (10-10)		
通信方式	O R5232C	O RS422/485(2線式)	● RS422/485(4線式)	
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	۲	奇数	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CT)	s) (s	XON/XOFF	
タイムアウト	3 🌩	(sec)			
リトライ	2]			
送信ウェイト	0 🗘	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合、 にするかを選択で	9番ピンをRI(入力) きます。デジタル製	にするか VCC(5V電 RS232Cアイソレーシ	源供給) ヨンフニッ		
トを使用する場合	rは、VCCを選択U	てください。		初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機器	器を追加			
	_				間接機器
No 機器名	設定				追加
👗 1 PLC1	▶ シリー	ズ=DL-305シリーズリ	局番号=1		F 1

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🜇 ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	DL-305シリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているみ	ドレスを再確
局番号	1	
		初期設定
	OK(O)	キャンセル

通信設定はリンク I/F ユニット側面のディップスイッチで行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 設定用ディップスイッチ SW1

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	ボーレート伝送速度 · 10 200 hpg
2	ON	ハ レ 下伝达述度 · 19,200 ops
3	OFF	パリティの有/無:無
4	ON	自己診断モード:OFF
5	OFF	ターンアラウンドディレー:なし
6	OFF	電源投入時モード:システムに合わせてください。
7	OFF	常時 OFF
8	OFF	伝送モード : HEX モード

◆ 設定用ディップスイッチ SW2

ディップスイッチ	設定	設定内容
1	ON	
2	OFF	
3	OFF	
4	OFF	子局番号:1
5	OFF	
6	OFF	
7	OFF	
8	OFF	常時 OFF

3.21 設定例 21

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1				
概要				接続機器変更
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	、 シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	: 1 変更			
通信题会				
通信支式	BS232C	○ RS422/485(2線式) ○ RS422/485(4線	(式)
通信速度	19200	~		14 W
データ長	0.7	. 8		
パリティ	○なし	〇偶数	● 奇数	
ストップビット	1	O 2	-	
フロー制御	○なし	● ER(DTR/CT)	S) 🔿 XON/XOFF	
タイムアウト	3 🜲	(sec)		
リトライ	2			
送信ウェイト	0 🛊	(ms)		
PL/ VCC				
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするかVCC(5V電	源供給)	
にするかを選択で トを使用する場合	きます。デジタル製 は、VCCを選択し	RS2320アイゾレージ てください。	3012 y	
			作儿共相言	又正
機器別設定 接結可能会對	16 - 185	号を追加		
130/2-145 0 22				問接機器
No 機器名	設定			追加
👗 1 PLC1	計 シリー	Z=KOSTAC SG/SI	J/SZシリーズ,局番号=1	F 1

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の mm([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ
シリーズを変更し 認してください。	と場合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定は命令語プログラマ(Z-20JP)で行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入 して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 メニュー 56 を選択します。[クリア][5][6][メニュー]と押し、ENT キーを押します。
- 2 プロトコルを「CCM2」に設定し、ENT キーを押します。
- **3** CCM 局番を入力します。[0][1] と押し、ENT キーを押します。

MEMO ・表示器で設定した局番に合わせてください。

4 伝送モードを「HEX」に設定し、ENT キーを押します。

- 5 伝送速度を 19200 に設定し、ENT キーを押します。
- 6 ストップビットを 1bit に設定し、ENT キーを押します。
- 7 パリティを奇数 (ODD) に設定し、ENT キーを押します。

3.22 設定例 22

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

+++++++++++++++++++++++++++++++++++++++					
接続(機器)					
概要					接続機器変
メーカー (株)ジェ	イテクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/DLS	シリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>				
通信設定					
通信方式	RS232C	O RS422/4850	2線式) 〇)RS422/485(4線式)	
通信速度	9600	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	〇偶数	● 奇费	<u>ل</u>	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	● ER(DTR/CT	rs) 🔿 XOI	N/XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2 🗘				
送信ウェイト	0 🗘	(ms)			
PT (1/2.2	0.57	-			
RI / VCC	(● Ki 0#+v>.★pr/l +=) 100 (EV画	(百/廿 2个)		
にするかを選択	、 9番 ビンをパリヘノ」 できます。 デジタル製	RS232Cアイソレーシ	/s/元/ロノ (ヨンユニツ		_
トを1史用 9 つ 场	合は、VUUを選択し	11/2000		初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>			
No 継 界 を	設定				間接機器
			1/97301-711	ᆿ 飛 무-1	20/10
M PLOT	1 29 -	X-ROOTHO 30/31	J/ JZ J Y = X //	り田 クート	20

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

■ 接続機器の設定

通信機器の通信設定は必要ありません。 ボーレート伝送速度および局アドレスは固定です。 また、パリティ、データ長、ストップビットも変更方法はありません。

3.23 設定例 23

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	え シリーズ	KOSTAC/DL	シリーズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	1 変更				
通信設定	~	- ·			
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 〇)RS422/485(4線式)
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	○ 偶数	● 奇势	紋	
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	ER(DTR/C)	rs) 🔿 xo	N/XOFF	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2	1			
送信ウェイト	0 🜲	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力))にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択で トを使用する場合	きます。 テシタル製 :は、 VCCを選択し	RS232Cアイソレージ てください。	/ヨンユニッ	シロ甘用三小二	2
				作力共和国风风	=
機器別設定					
接続可能台数	16台 機	<u>器を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定はラダーソフト(DirectSOFT32-プログラミングバージョン4.0)で行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- **1** ラダーソフト (DirectSOFT32) を起動し、接続機器とオンライン状態にします。
- 2 [PLC] メニューから [設定] [汎用通信ポート設定]を選択します。
- 3 [通信ポートの設定]ダイアログボックスで通信設定を以下のように行います。

項目	設定
ポート	ポート2
プロトコル	CCM ネット (DirectNET)
タイムアウト	500 ms
RTS on ディレイ時間	20 ms
局番	1
速度	19,200 bps
ストップビット	1
パリティ	奇数
データ形式	ヘキサ

4 設定完了後、[転送]をクリックし、設定内容を接続機器へ転送します。

3.24 設定例 24

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	シリーズ	KOSTAC/DLシリー	-ズ CCM SIO	ポート COM1
文字列データモー	× 1 <u>変更</u>				
通信設定					
通信方式	O RS232C	O RS422/4850	2線式) 💿 RS	422/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	● 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○なし	ER(DTR/CT)	rs) 🕜 XON/XO	OFF	
タイムアウト	3 🜲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	I RI				
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択し	"さます。 テンタル裂合は、 VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	マンユニッ	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機器	<u>器を追加</u>			
M. 指理力	≣∿				間接機器
	設定				追加
			いっこうり へい可世		= 0

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の 🜇 ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLC1	
シリーズ	KOSTAC SG/SU/SZシリーズ 〜
シリーズを変更した場合 認してください。	は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(0) キャンセル

通信設定はラダーソフト(DirectSOFT32-プログラミングバージョン4.0)で行ないます。設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- **1** ラダーソフト (DirectSOFT32) を起動し、接続機器とオンライン状態にします。
- 2 [PLC] メニューから [設定] [汎用通信ポート設定]を選択します。
- 3 [通信ポートの設定]ダイアログボックスで通信設定を以下のように行います。

項目	設定
ポート	ポート2
プロトコル	CCM ネット (DirectNET)
タイムアウト	500 ms
RTS on ディレイ時間	20 ms
局番	1
速度	19,200 bps
ストップビット	1
パリティ	奇数
データ形式	ヘキサ

4 設定完了後、[転送]をクリックし、設定内容を接続機器へ転送します。

3.25 設定例 25

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

亲続機器1					
概要					接続機器変
メーカー (株)ジェイ	テクトエレクトロニクス	、 シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ	CCM SIO	ポート COM1
文字列データモード	1 変更				
通信設定	~				
通信方式	RS232C	O RS422/485	(2線式) 〇 RS42	22/485(4線式)	
通信速度	19200	\sim			
データ長	07	. 8			
パリティ	○ なし	○ 偶数	奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/C)	rs) 🔿 Xon/Xof	F	
タイムアウト	3	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0 🜲	(ms)			
RI / VCC	I RI	O VCC			
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択で トを使用する場合	ざます。テンタル裂 rは、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	יפעביש	オカ甘用言な一字	
				TUMBAL	
機器別設定	101. 100				
接続可能台致	16台 機	<u>話を追加</u>			
No 機器名	設定				間接機器 追加
X 1 PLC1	画 シリー	ズ=DL-205/DL-40	5シリーズ,局番号=1		

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ	~
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再	確
局番号	1	
	补刀其用言 受:	定
	OK(O) キャンセル	

通信設定は(株)ジェイテクトエレクトロニクス PLC プログラミングソフトウェアで行ないます。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 接続機器のキースイッチモードを「TERM」に設定します。
- 2 パソコンを接続機器の汎用通信ポートに接続します。
- **3**(株)ジェイテクトエレクトロニクス PLC プログラミングソフトウェアでファイルメニューの新規 ファイルを選択します。
- 4 使用する接続機器の機種を選択します。
- **5** [PLC ビュー]で、[PLC]→[PLC 設定]→[汎用通信ポート設定]を選択します。
- 6パソコンと接続機器との接続パラメータを設定します。
- 7 [接続テスト]をクリックします。
- 8 [PLC] → [PLC 設定] → [汎用通信ポート設定]を選択します。
- 9 ポートのパラメータを設定します。
- 10 [PLC へ書込] をクリックします。

3.26 設定例 26

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。

接続機器1					
概要					接続機器変更
メーカー (株)ジェ1	(テクトエレクトロニクス	シリーズ	KOSTAC/DLシリーズ	CCM SIO	ポート СОМ1
文字列データモー	ド <u>1 変更</u>				
通信設定					
通信方式	O RS232C	O RS422/4850	2線式) 💿 RS422	2/485(4線式)	
通信速度	19200	~			
データ長	07	. 8			
パリティ	○なし	○ 偶数	• 奇数		
ストップビット	1	O 2			
フロー制御	○ なし	ER(DTR/CT)	S) 🔿 XON/XOFF	-	
タイムアウト	3 🌲	(sec)			
リトライ	2				
送信ウェイト	0	(ms)			
RI / VCC	() RI				
RS232Cの場合、	9番ピンをRI(入力)	にするか VCC(5V電	源供給)		
にするかを選択() トを使用する場合	ござます。テンタル裂 合は、VCCを選択し	RS2320アイソレーシ てください。	ヨンユニツ	初期設定	
機器別設定					
接続可能台数	16台 機器	<u>器を追加</u>			
1. 书注中之	=				間接機器
	設定		않네는것 목표목 1		追加
1 PLOT		X-DL-200/DL-40;	シリニス/可量方=1		20

♦ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器設定]から設定したい接続機器の m ([設定]) をクリックします。

🎒 個別機器設定	×
PLG1	
シリーズ	DL-205/DL-405シリーズ ~
シリーズを変更した場合 認してください。	合は、すでに使用されているアドレスを再確
局番号	1
	初期設定
	OK(O) キャンセル

通信設定は(株)ジェイテクトエレクトロニクス PLC プログラミングソフトウェアで行ないます。 詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 接続機器のキースイッチモードを「TERM」に設定します。
- 2 パソコンを接続機器の汎用通信ポートに接続します。
- **3**(株)ジェイテクトエレクトロニクス PLC プログラミングソフトウェアでファイルメニューの新規 ファイルを選択します。
- 4 使用する接続機器の機種を選択します。
- **5** [PLC ビュー]で、[PLC]→[PLC 設定]→[汎用通信ポート設定]を選択します。
- 6パソコンと接続機器との接続パラメータを設定します。
- 7 [接続テスト]をクリックします。
- 8 [PLC] → [PLC 設定] → [汎用通信ポート設定]を選択します。
- 9 ポートのパラメータを設定します。
- 10 [PLC へ書込] をクリックします。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。 各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリック します。



設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間(s)を「1~127」で入力します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0~255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms)を「0~255」で入力します。
RI/VCC	通信方式でRS232Cを選択した場合に9番ピンのRI/VCCを切り替えます。 IPCと接続する場合は、IPCの切替スイッチでRI/5Vを切り替える必要がありま す。詳細はIPCのマニュアルを参照してください。

MEMO

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい (間接 機器指定)」

• 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の [[[([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から[機器を追加]をクリック することで、接続機器を増やすことができます。

🎒 個別機器設定		×
PLC1		
シリーズ シリーズを変更した場合	KOSTAC SG/SU/SZシリー は、すでに使用されているを	ズ ~
認してください。 局番号	1	r byrei 1-a
		初期設定
	OK(0)	キャンセル

設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。
局番号	接続機器の局番を「1~90」で入力します。

4.2 オフラインモードでの設定

MEMO

 オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してく ださい。

参照:保守/トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

オフラインモードは使用する表示器によって1画面に表示できる設定項目数が異なります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチしま す。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。



設定項目	設定内容
	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信方式	 重 通信設定を行う場合、[通信方式]は表示器のシリアルインターフェイスの仕様を確認し、正しく設定してください。 シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。 シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容	
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。	
ストップビット	ストップビット長を選択します。	
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。	
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間(s)を「1~127」で入力します。	
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0~255」で入力します。	
送信ウェイト 表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機 (ms)を「0~255」で入力します。		

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定]をタッチします。



設定項目	設定内容		
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の 名称です。(初期値 [PLC1])		
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。		
局番号	接続機器の局番を「1~90」で入力します。		

■ オプション設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション]をタッチします。



設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式でRS232Cを選択した場合に9番ピンのRI/VCCを切り替えます。 IPCと接続する場合は、IPCの切替スイッチでRI/5Vを切り替える必要があります。詳細はIPCのマニュアルを参照してください。

МЕМО	・ GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、LT-4*01TM および LT-Rear Module
	の場合、オフラインモードに [オプション] の設定はありません。

5 結線図

以下に示す結線図と(株)ジェイテクトエレクトロニクスが推奨する結線図が異なる場合があります が、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照して ください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成 されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図1

表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ^{*1} (COM1) SP5000 ^{*2} (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC ^{*3} PC/AT	1A	自作ケーブル	ケーブル長: 15m 以内
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	1B	自作ケーブル	ケーブル長: 15m 以内
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	1C	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	ケーブル長: 5m以内

*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

1A)

表示器側 D-Sub 9ピン(ソケット)					接続機器側 D-Sub 25ピン(プラグ)	
表示器	ピン	信号名		ピン	信号名	
	2	RD(RXD)		2	TXD	
	3	SD(TXD)		3	RXD	
	4	ER(DTR)		4	RTS	
	5	SG		5	CTS	
	7	RS(RTS)	$h \in \mathbb{N}_{+-}$	7	SG	
	8	CS(CTS)	┥╵┈╲╺╧───		FG	



1C)

1B)



番号	名称	備考
(1)	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	

結線図2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考	
GP3000 ^{*1} (COM1) AGP3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST3000 ^{*2} (COM2) LT3000 (COM1) IPC ^{*3}	2A 2B	 (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01	ケーブル長: 600m 以内	
GP3000 ^{*4} (COM2)	2C 2D	 (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01	ケーブル長: 600m 以内	
GP-4106 (COM1) GP-4116T (COM1)	2E	自作ケーブル	ケーブル長: 600m 以内	
GP4000 ^{*5} (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 ^{*6} (COM1/2) SP-5B00 (COM2) ST6000 ^{*7} (COM2)	2F	(株)デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 ^{*9} + 自作ケーブル		
ST-6200 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 ^{*8} (COM2) PS6000 (ベーシック ボックス) (COM1/2)	2B	自作ケーブル	ケーブル長: 600m 以内	
PE-4000B ^{*10} PS5000 ^{*10} PS6000 (オプションイ ンターフェイス) ^{*10}	2G	自作ケーブル	ケーブル長: 600m以内	

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く

- *3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B、PS5000 および PS6000 を除く) を除く) ● IPC の COM ポートについて (6 ページ)
- *4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- *5 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種
- *6 SP-5B00 を除く
- *7 ST-6200 を除く

- *8 COM ポートの仕様上、フロー制御ができないため、結線図の表示器側の制御ピンの配線は省略し てください。
- *9 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01)を使用する 場合、2A の結線図を参照してください。

2A)

1:1 接続の場合



● 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

1:n 接続の場合



2B)

1:1 接続の場合



使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

1:n 接続の場合

MEMO



2C)

٠ 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合 ٠

MEMO



2D)

1:1 接続の場合



- **MEMO** ・ 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。
- 1:n 接続の場合


2E)

1:1 接続の場合



● 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

1:n 接続の場合



使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを 以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

MEMO

2F)

1:1 接続の場合



MEMO・使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

1:n 接続の場合



2G)

1:1 接続の場合



• 使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

1:n 接続の場合

MEMO





使用しない +IN、-IN には終端抵抗 150Ω を接続してください。

結線図3

表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 ^{*1} (COM1) AGP3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST3000 ^{*2} (COM2) LT3000 (COM1) IPC ^{*3}	3A 3B	 (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル 自作ケーブル 	ケーブル長: 600m 以内
GP3000 ^{*4} (COM2)	3C 3D	 (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01	ケーブル長 : 600m 以内
GP-4106 (COM1) GP-4116T (COM1)	3E	自作ケーブル	ケーブル長: 600m 以内
GP4000 ^{*5} (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 ^{*6} (COM1/2) SP-5B00 (COM2) ST6000 ^{*7} (COM2) ST-6200 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 ^{*8} (COM2) PS6000 (ベーシック ボックス) (COM1/2)	3F	(株)デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 ^{*9} + 自作ケーブル	
	3B	自作ケーブル	ケーブル長: 600m 以内
PE-4000B ^{*10} PS5000 ^{*10} PS6000 (オプションイ ンターフェイス) ^{*10}	3G	自作ケーブル	ケーブル長: 600m 以内

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く

- *4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*6 SP-5B00 を除く

*7 ST-6200 を除く

^{*5} GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

- *8 COM ポートの仕様上、フロー制御ができないため、結線図の表示器側の制御ピンの配線は省略して ください。
- *9 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する 場合、3A の結線図を参照してください。

3A)



MEMO

+RXD、-RXDには終端抵抗 150Ω を接続してください。

3B)



MEMO

+RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。





MEMO	 +RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。 	
------	------------------------------------------------------	--



MEMO

+RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを 以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

3F)





結線図4

表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ^{*1} (COM1) SP5000 ^{*2} (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC ^{*3} PC/AT	4A	自作ケーブル	ケーブル長: 15m 以内
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	4B	自作ケーブル	ケーブル長: 15m 以内
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	4C	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	ケーブル長: 5m 以内

*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

4A)

表示器側 D-Sub 9ピン(ソケット)					接続機器側 モジュラ 6ピン	
	ピン	信号名	9-115	ピン	信号名	
表示器 之 支示器 之 で そ そ	2	RD(RXD)	← / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	4	TXD	
	3	SD(TXD)		3	RXD	
	4	ER(DTR)		2	+ 5V	
	5	SG		1	0V	
	7	RS(RTS)	$h \in \{j\}$	5	RTS	
	8	CS(CTS)	↓ `·····` ↓	6	0V	

表示器側 接続機器側 端子台 モジュラ6ピン シールド 信号名 ピン 信号名 RD(RXD) 4 TXD 表示器 SD(TXD) 3 RXD 2 + 5V ER(DTR) SG 1 0V RS(RTS) 5 RTS ; CS(CTS) 6 0V

4C)

4B)



番号	名称	備考
(1)	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	

結線図 5

表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ^{*1} (COM1) SP5000 ^{*2} (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC ^{*3} PC/AT	5A	自作ケーブル	ケーブル長: 3m 以内
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	5B	自作ケーブル	ケーブル長: 3m以内
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	5C	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	ケーブル長: 3m以内

*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

5A)

表示器側 D-Sub 9ピン(ソケット)			接続 モジュ	機器側 .ラ6ピン	
表示器	ピン	信号名	シールド	ピン	信号名
	2	RD(RXD)		4	TXD
	3	SD(TXD)		3	RXD
	5	SG		1	SG
	4	ER(DTR)			
	7	RS(RTS)			
	8	CS(CTS)	┫╲╶╲┊╴		
	シェル	FG	<u> </u>		

5B)



5C)



番号	名称	備考
(1)	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	

結線図6

表示器 (接続ポート)		ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ^{*1} (COM1) SP5000 ^{*2} (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC ^{*3} PC/AT	6A	自作ケーブル	ケーブル長: 15m 以内
GP-4105 (COM1) GP-4115T (COM1) GP-4115T3 (COM1)	6B	自作ケーブル	ケーブル長: 15m 以内
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	6C	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	ケーブル長: 5m以内

*1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種

*2 SP-5B00 を除く

6A)

表示器側 D-Sub 9ピン(ソケット) 、			接続機器側 高密度 15ピン(プラグ)		
	ピン	信号名		ピン	信号名
	2	RD(RXD)	← / / \	2	TXD
表示器	3	SD(TXD)		3	RXD
	4	ER(DTR)		4	RTS
	5	SG	L •	5	CTS
	7	RS(RTS)	$h \in \mathbb{N}_{+-}$	7	SG
	8	CS(CTS)	┥ <u>ヽ</u>		FG



6C)

6B)



番号	名称	備考
(1)	(株)デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJR21	

結線図 7

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 ^{*1} (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST3000 ^{*2} (COM2) LT3000 (COM1) IPC ^{*3}	7A 7B	 (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル 	ケーブル長: 600m 以内
GP3000 ^{*4} (COM2)	7C 7D	 (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 	ケーブル長 : 600m 以内
GP-4106 (COM1) GP-4116T (COM1)	7E	+ 自作ケーブル 自作ケーブル	ケーブル長 : 600m 以内
GP4000 ^{*5} (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 ^{*6} (COM1/2) SP-5B00 (COM2)	7F	(株)デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 + 自作ケーブル	
ST6000 ^{*7} (COM2) ST-6200 (COM1) STM6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 ^{*8} (COM2) PS6000 (ベーシック ボックス) (COM1/2)	7B	自作ケーブル	ケーブル長 : 600m 以内
PE-4000B ^{*10} PS5000 ^{*10} PS6000 (オプションイ ンターフェイス) ^{*10}	7G	自作ケーブル	ケーブル長: 600m 以内

*1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*2 AST-3211A および AST-3302B を除く

*4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

*5 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

*6 SP-5B00 を除く

*7 ST-6200 を除く

- *8 COM ポートの仕様上、フロー制御ができないため、結線図の表示器側の制御ピンの配線は省略して ください。
- *9 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する 場合、7A の結線図を参照してください。

7A)



7B)



МЕМО

+RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。





7D)







MEMO

+RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。

*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを 以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

7F)



MEMO

+RXD、-RXD には終端抵抗 150Ω を接続してください。



結線図8

表示器 (接続ポート)	ケーブル	備考
GP3000 (COM1) GP4000 ^{*1} (COM1) SP5000 ^{*2} (COM1/2) SP-5B00 (COM1) ST3000 (COM1) ST6000 (COM1) STC6000 (COM1) ET6000 (COM1) LT3000 (COM1) IPC ^{*3} PC/AT	8A (株) ジェイテクトエレクトロニクス製ケーブル D2-DSCBL	ケーブル長: 15m 以内

- *1 GP-4100 シリーズおよび GP-4203T を除く全 GP4000 機種
- *2 SP-5B00 を除く

8A)



6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。使用できるデバイスの種類、範囲は CPU に よって異なる場合があります。ご使用になられる前に、各 CPU のマニュアルでご確認ください。

6.1 KOSTAC SG シリーズ

レーロはシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I1777	R40400 - R40477		<u>oct</u> 8 *1
出力リレー	Q0000 - Q1777	R40500 - R40577		οcτ 8 *1
全局伝送リレー (入力)	GI0000 - GI3777	R40000 - R40177		oct 8] *1
特別局伝送リレー (出力)	GQ0000 - GQ3777	R40200 - R40377		oct 8] *1
内部リレー	M0000 - M3777	R40600 - R40777		oct 8 *1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		oct 8 *1
タイマ(接点)	T000 - T377	R41100 - R41117		<u>○c⊤</u> 8) *1
カウンタ (接点)	C000 - C377	R41140 - R41157		ост 8) *1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41077		ост 8) *1
タイマ(経過値)	_	R0000 - R0377		OCT 8
カウンタ(経過値)	—	R1000 - R1377		OCT 8
データレジスタ1	_	R400 - R777		ост 8] ві t15]
データレジスタ2	_	R1400 - R7377		<u>ост</u> 8ј <u>ві</u> т15ј
特殊レジスタ	—	R7400 - R7777	[ост 8] ві t 15]
データレジスタ3	_	R10000 - R37777		ост 8) <u>ві 1</u> 5)

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

「『「表記のルール」

- 6.2 KOSTAC SU シリーズ
 - SU-5/5E/6 シリーズ

レーレー はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I000 - I477	R40400 - R40423		oct 8] *1
出力リレー	Q000 - Q477	R40500 - R40523		oct 8 *1
リンクリレー/リン ク入力	GI0000 - GI1777	R40000 - R40077		ост 8] *1
内部リレー	M0000 - M0737	R40600 - R40635		oct 8] *1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP617	R41200 - R41205 R41215 - R41230	[L / H]	oct 8] *1
タイマ (接点)	T000 - T177	R41100 - R41107		oct 8 *1
カウンタ(接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		oct 8 *1
ステージ	S0000 - S0577	R41000 - R41027		oct 8 *1
タイマ(経過値)	—	R0000 - R0177		<u>ост</u> 8
カウンタ(経過値)	—	R1000 - R1177		OCT 8
データレジスタ	—	R1400 - R7377		ост 8] ві t15)
特殊レジスタ ^{*2}	_	R7400 - R7777	1	ост 8] ві t15]

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

*2 データの書き込みはできません。

MEMO ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{「②●}「表記のルール」

■ SU-6B/6B-C シリーズ

レーレー はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I000 - I477	R40400 - R40423		oct 8 *1
出力リレー	Q000 - Q477	R40500 - R40523		oct 8] *1
リンクリレー/リン ク入力	GI0000 - GI1777	R40000 - R40077		oct 8] *1
内部リレー	M0000 - M1777	R40600 - R40677		<u>oct</u> 8 *1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP717	R41200 - R41205 R41215 - R41234		oct 8] *1
タイマ (接点)	Т000 - Т377	R41100 - R41117		oct 8 *1
カウンタ(接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		oct 8] *1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41077		OCT 8] *1
タイマ(経過値)	_	R0000 - R0377		<u>ост</u> 8]
カウンタ (経過値)	—	R1000 - R1177		<u>ост</u> 8]
データレジスタ	_	R1400 - R7377		ост 8] <u>ві</u> (15)
特殊レジスタ ^{*2}	_	R700 - R737 R7400 - R7777		ост 8] ві 1 5)
拡張レジスタ	_	R10000 - R17777		ост 8] ві (15)

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

*2 データの書き込みはできません。

MEMO	• システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく
	ださい。

- 参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞ 「表記のルール」

■ SU-5M/5M-C/6M/6M-C シリーズ

レーレー はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	I0000 - I1777	R40400 - R40477		oct 8 *1
出力リレー	Q0000 - Q1777	R40500 - R40577		oct 8] *1
リンクリレー/リン ク入力	GI0000 - GI3777	R40000 - R40177		oct 8] *1
特別局伝送リレー (出力)	GQ0000 - GQ3777	R40200 - R40377		oct 8] *1
内部リレー	M0000 - M3777	R40600 - R40777		<u>oct</u> 8 *1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237	[L/H]	oct 8 *1
タイマ (接点)	Т000 - Т377	R41100 - R41117		oct 8] *1
カウンタ(接点)	C000 - C377	R41140 - R41157		oct 8] *1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41077		OCT 8] *1
タイマ(経過値)	_	R0000 - R0377		<u></u> 8
カウンタ(経過値)	_	R1000 - R1377		<u>(007</u> 8)
データレジスタ	—	R1400 - R7377		ост 8] ві t 15]
特殊レジスタ ^{*2}	_	R700 - R777 R7400 - R7777		<u>ост</u> 8] <u>ві</u> (15)
拡張レジスタ	_	R10000 - R36777		ост 8] <u>ві (</u> 15)

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

*2 データの書き込みはできません。

мемо	•	 システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく
	•	ださい。

- 参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

6.3 KOSTAC SZ シリーズ

____ はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	10000 - 10477	R40400 - R40423		oct 8] *1
出力リレー	Q0000 - Q0477	R40500 - R40523		oct 8 *1
内部リレー	M0000 - M0377	R40600 - R40617		oct 8 *1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP540 - SP617	R41200 - R41205 R41226 - R41230		oct 8] *1
タイマ(接点)	T000 - T177	R41100 - R41107		oct 8] *1
カウンタ(接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		oct 8] *1
ステージ	S000 - S777	R41000 - R41037		oct 8] *1
タイマ(経過値)	_	R000 - R177		<u>ост</u> 8]
カウンタ (経過値)	—	R1000 - R1177		<u>ост</u> 8]
データレジスタ	—	R2000 - R3777		ост 8] ві t
特殊レジスタ	_	R7746 - R7777		ост 8] ві t15]

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

- MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。
 - 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
 - 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{②予}「表記のルール」

6.4 KOSTAC PZ3 シリーズ

____ はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	10000 - 10777	R40400 - R40437		oct 8] *1
出力リレー	Q0000 - Q0777	R40500 - R40537		oct 8 *1
内部リレー	M0000 - M1777	R40600 - R40677		ост 8] *1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		oct 8 *1
タイマ (接点)	T000 - T377	R41100 - R41117	rL/Hì	ост 8] *1
カウンタ(接点)	C000 - C177	R41140 - R41147	· · · · · ·	ост 8] *1
ステージ	S0000 - S1777	R41000 - R41037		<u>ост</u> 8] *1
タイマ(経過値)	—	R00000 - R41177		<u>ост</u> 8
カウンタ (経過値)	—	R01000 - R41147	-	0cT 8
データレジスタ	_	R1400 - R7377 R10000 - R17777		ост 8] <u>ві 1</u> 5
特殊レジスタ	_	R41200 - R41237	1	ост 8] <u>ві t</u> 15]

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

- MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。
 - 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
 - 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{②予}「表記のルール」

6.5 KOSTAC SR シリーズ

└─── はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入出力リレー	000 - 157 700 - 767	R000 - R014 R070 - R076(前半1バイト)		<u>○c⊤</u> 8) ÷2)*1
内部リレー	160 - 377 770 - 777	R016 - R036 R076(後半 1 バイト)		<u>₀₊</u> 8) ÷2)*1
シフトレジスタ	400 - 577	R040 - R056	[L/H]	<u>○ст</u> 8) ÷2] ^{*1}
タイマ・カウンタ (接点)	600 - 677	R060 - R066		<u>○c⊤</u> 8] ÷2] ^{*1}
タイマ・カウンタ (経過値)	_	R600 - R677		<u>ост</u> 8]
データレジスタ	_	R400 - R576		المحتو ج 2]

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{©デ}「表記のルール」

6.6 DL-205 シリーズ

レーレー はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	X0000 - X0477	V40400 - V40423		oct 8] *1
出力リレー	Y0000 - Y0477	V40500 - V40523		oct 8 *1
コントロールリレー	C0000 - C0377	V40600 - V40617		oct 8] *1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP617	V41200 - V41205 V41215 - V41230		oct 8] *1
タイマ (接点)	T000 - T177	V41100 - V41107		oct 8 *1
カウンタ(接点)	CT000 - CT177	V41140 - V41147		oct 8 *1
ステージ	S000 - S777	V41000 - V41037		oct 8 *1
タイマ(経過値)	—	V0000 - V0177		<u>ост</u> 8
カウンタ(経過値)	—	V1000 - V1177		<u>ост</u> 8
データレジスタ	—	V2000 - V3777		ост 8] <u>ві</u> (15)
特殊レジスタ	_	V7746 - V7777	ſ	ост 8] ві (15)

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

- MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。
 - 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
 - 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{②予}「表記のルール」

6.7 DL-305 シリーズ

____ はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入出力リレー	000 - 157 700 - 767	V000 - V014 V070 - V076(前半1バイト)		<u>○c⊤</u> 8] ÷2] ^{*1}
コントロールリレー	160 - 377 770 - 777	V016 - V036 V076(後半 1 バイト)		<u>○c⊤</u> 8] ÷2] ^{*1}
シフトレジスタ	400 - 577	V040 - V056	[L/H]	<u>○ст</u> 8] ÷2] ^{*1}
タイマ・カウンタ (接点)	600 - 677	V060 - V066		<u>○c⊤</u> 8] ÷2] ^{*1}
タイマ・カウンタ (経過値)	_	V600 - V677		8] ÷2]
データレジスタ	_	V400 - V576		<u>هدت</u> 8ا <u>∎⊦15</u> ÷2

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{©デ}「表記のルール」

6.8 DL-405 シリーズ (D4-430, D4-440)

レーロはシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	X000 - X477	V40400 - V40423		oct 8] *1
出力リレー	Y000 - Y477	V40500 - V40523		oct 8] *1
リンクリレー	GX0000 - GX1777	V40000 - V40077		oct 8] *1
リンク出力リレー	GY0000 - GY3777	V40200 - V40377		oct 8] *1
コントロールリレー	C0000 - C1777	V40600 - V40677		oct 8 *1
特殊リレー	SP000 - SP137 SP320 - SP717	V41200 - V41205 V41215 - V41234		ост 8] *1
タイマ (接点)	T000 - T377	V41100 - V41117	[L/H]	oct 8 *1
カウンタ(接点)	CT000 - CT177	V41140 - V41147		oct 8 *1
ステージ	S0000 - S1777	V41000 - V41077		oct 8] *1
タイマ(経過値)	_	V0000 - V0377		<u></u> 8
カウンタ(経過値)	—	V1000 - V1177	_	<u>ост</u> 8]
データレジスタ1	—	V400 - V777		ост 8] ві (15]
データレジスタ2	—	V1400 - V7377		ост 8] ві (15]
特殊レジスタ	—	V7400 - V7777	-	ост 8] <u>ві t</u> 15]
データレジスタ3	—	V10000 - V37777		ост 8] <u>ві t</u> 15]

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

MEMO	•	システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく
		ださい。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専 用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{「②●}「表記のルール」

6.9 DL-405 シリーズ (D4-454)

____ はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	X0000 - X1777	V40400 - V40477		oct 8 *1
出力リレー	Y0000 - Y1777	V40500 - V40577		oct 8 *1
リモート入力	GX0000 - GX3777	V40000 - V40177		oct 8] *1
リモート出力	GY0000 - GY3777	V40200 - V40377		oct 8] *1
コントロールリレー	C0000 - C3777	V40600 - V40777		ост 8] *1
特殊リレー	SP000 - SP777	V41200 - V41237		ост 8] *1
タイマ	Т000 - Т377	V41100 - V41117	[L/H]	oct 8] *1
カウンタ	СТ000 - СТ377	V41140 - V41157		ост 8] *1
ステージ	S0000 - S1777	V41000 - V41077		oct 8] *1
タイマ (現在値)	_	V0000 - V0377		OCT 8
カウンタ (現在値)	_	V1000 - V1377		OCT 8
データレジスタ1	V400.00 - V777.15	V400 - V777		ост 8] ві t15]
データレジスタ2	V1400.00 - V7377.15	V1400 - V7377		ост 8] <u>ві t</u> 15]
特殊レジスタ	V7400.00 - V7777.15	V7400 - V7777		ост 8] ві (15)
データレジスタ3	V10000.00 - V37777.15	V10000 - V37777		ост 8] ві (15)

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

MEMO ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

「『「表記のルール」

6.10 Direct Logic 05 シリーズ

L はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	10000 - 10377	R40400 - R40417		ост 8] *1
出力リレー	Q0000 - Q0377	R40500 - R40517		ост 8] *1
内部リレー	M0000 - M0777	R40600 - R40637		oct 8] *1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		<u>ος</u> τ 8] *1
タイマ (接点)	T000 - T177	R41100 - R41107		oct 8] *1
カウンタ(接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		oct 8] *1
ステージ	S000 - S377	R41000 - R41017		<u>ος</u> τ 8] *1
タイマ(経過値)	_	R000 - R177		<u>ост</u> 8]
カウンタ (経過値)	—	R1000 - R1177		<u>ост</u> 8]
V-メモリ	– R1200 - R7377			ост 8] ві t15] *2
V-メモリ 不揮発性	_	R7400 -R7577	ſ	ост 8] <u>ві 1</u> 5]
システムパラメータ	—	R7600 - R7777		ост 8] <u>ві т</u> 15]

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

*2 R1200~R1377 はビット指定できません。

MEMO ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照:GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

^{「②●}「表記のルール」

6.11 Direct Logic 06 シリーズ

レーレー はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
入力リレー	10000 - 10777	R40400 - R40437		<u>ост</u> 8] *1
出力リレー	Q0000 - Q0777	R40500 - R40537		<u>ост</u> 8] *1
内部リレー	M0000 - M1777	R40600 - R40677		oct 8] *1
特殊リレー	SP000 - SP777	R41200 - R41237		<u>○○□⊤</u> 8] *1
タイマ(接点)	Т000 - Т377	R41100 - R41117		oct 8] *1
カウンタ (接点)	C000 - C177	R41140 - R41147		oct 8] *1
ステージ	S0000 - S1777	30000 - S1777 R41000 - R41077		oct 8] *1
タイマ(経過値)	—	– R000 - R377		<u>ост</u> 8]
カウンタ (経過値)	—	R1000 - R1177		<u>ост</u> 8]
V-メモリ	_	R0400 - R0677 R1200 - R7377 R10000 - R17777		ост 8) Вн (15) *2
V-メモリ 不揮発性	_	R7400 -R7577	Ī	<u>∞∝⊤8</u>] <u>⊮⊤15</u>]
システムパラメータ	_	R700 - R777 R7600 - R7777 R36000 - R37777		_{.∞=7} 8) <u>Bi</u> ,15)

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読込み、読込んだ ワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す 間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない 場合があります。

MEMO ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してく ださい。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア(ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

• 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

「『「表記のルール」

^{*2} R1200~R1377 はビット指定できません。

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

■ KOSTAC SG/KOSTAC SU/KOSTAC SZ/KOSTAC PZ3/Direct Logic 05/Direct Logic 06 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	I/R	0080	ワードアドレス
出力リレー	Q/R	0081	ワードアドレス
リンクリレー	GI/R	0082	ワードアドレス
リンク出力リレー	GQ/R	0083	ワードアドレス
内部リレー	M/R	0084	ワードアドレス
特殊リレー	SP/R	0085	ワードアドレス
タイマ (接点)	T/R	00E0	ワードアドレス
カウンタ(接点)	C/R	00E1	ワードアドレス
ステージ	S/R	0004	ワードアドレス
タイマ(経過値)	R	0060	ワードアドレス
カウンタ(経過値)	R	0061	ワードアドレス
データレジスタ1	R	0000	ワードアドレス
データレジスタ 2	R	0001	ワードアドレス
特殊レジスタ	R	0002	ワードアドレス
データレジスタ3	R	0003	ワードアドレス

■ KOSTAC SR シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入出力リレー(R000-R014)		0080	ワードアドレス ÷2 の値
入出力リレー(R070 - R076)	/R		
内部リレー(R016 - R036)			
内部リレー (R076)			
シフトレジスタ			
タイマ・カウンタ (接点)			
タイマ・カウンタ(経過値)	R	0060	ワードアドレス
データレジスタ	R	0000	ワードアドレス ÷2 の値

■ DL-205/DL-405 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X/V	0080	ワードアドレス
出力リレー	Y/V	0081	ワードアドレス
リンクリレー	GX/V	0082	ワードアドレス
リンク出力リレー	GY/V	0083	ワードアドレス
コントロールリレー	C/V	0084	ワードアドレス
特殊リレー	SP/V	0085	ワードアドレス
タイマ (接点)	T/V	00E0	ワードアドレス
カウンタ(接点)	CT/V	00E1	ワードアドレス
ステージ	S/V	0004	ワードアドレス
タイマ(経過値)	V	0060	ワードアドレス
カウンタ(経過値)	V	0061	ワードアドレス
データレジスタ1	V	0000	ワードアドレス
データレジスタ 2	V	0001	ワードアドレス
特殊レジスタ	V	0002	ワードアドレス
データレジスタ3	V	0003	ワードアドレス

■ DL-305 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入出力リレー(V000 - V014)			
入出力リレー(V070 - V076)			
コントロールリレー (V016 - V036)	/V	0080	ワードアドレス ÷2 の値
コントロールリレー (V076)			
シフトレジスタ			
タイマ・カウンタ (接点)			
タイマ・カウンタ(経過値)	V	0060	ワードアドレス
データレジスタ	V	0000	ワードアドレス ÷2 の値
8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のよう に表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 MEMO • IP アドレスは「IP アドレス (10 進数): MAC アドレス (16 進数)」のように表示 されます。 • デバイスアドレスは「アドレス: デバイスアドレス」のように表示されます。 • 受信エラーコードは「10 進数[16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード: 1[01H])」

МЕМО	 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7	• ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守 / トラブル解決ガイド」の「表
	示器で表示されるエラー」を参照してください。

■ 接続機器特有のエラーコード

接続機器特有のエラーコードは、以下のようになります。

エラーコード	説明
01	シリアルリンク上でタイムアウトが発生しました。
04	利用できる範囲外の入出力データを要求されました。
0C	ヘッダ転送時、3回リトライしてもエラーが発生しました。
0D	データ転送時、3回リトライしてもエラーが発生しました。
14	 データブロック転送中、以下のエラーのうち1つ以上が発生しました。 ・無効な STX を受信した ・無効な ETB を受信した ・無効な ETX を受信した ・無効な LRC を受信した ・パリティ、フレーミングあるいはオーバーランエラーが発生した
15	親局からの EOT の受信を待っていましたが、受信できませんでした。
16	ACK/NAK 待ちのとき、どちらも受信できませんでした

エラーコード	説明
1D	 ヘッダ/データ転送以外で以下のエラーのうち1つ以上が発生しました。 ・無効な STX を受信した ・無効な ETB を受信した ・無効な ETX を受信した ・無効な LRC を受信した ・パリティ、フレーミングあるいはオーバーランエラーが発生した
1E	 ヘッダ転送中、以下のエラーのうち1つ以上が発生しました。 ・無効な SOH を受信した ・無効な ETB を受信した ・無効な LRC を受信した ・パリティ、フレーミングあるいはオーバーランエラーが発生した